

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 12 日現在

機関番号：14701

研究種目：基盤研究(c)

研究期間：2009～2012

課題番号：21520331

研究課題名（和文） 『ロランの歌』 データベースの構築と電子校訂法の確立

研究課題名（英文） Construction of the database of the *Song of Roland* and establishment of a method of electronic edition.

研究代表者

小栗栖 等 (OGURISU HITOSHI)

和歌山大学・教育学部・教授

研究者番号：60283941

研究成果の概要(和文)：

コンピュータを活用し、フランス最古の文学作品である『ロランの歌』の最良の写本（手書き本）を校訂して、電子テキストを作成した。また、そのテキストの各行が過去の研究者により、どのように読まれ、解釈されてきたのかをデータベース化した。これにより、『ロランの歌』にまつわる過去の膨大な研究成果に、より簡単にアクセスすることが可能となった。また、校訂作業を通じ、過去の通説を覆すいくつかの発見も得た。

研究成果の概要(英文)：

We made an electronic text of the Oxford manuscript (the best manuscript of the *Song of Roland*), and the database of the readings and the interpretations presented by the other researchers until today. With that database, we can get much more easily than before access to the fruit of the past studies. Through that work, we made some discoveries that may refute some several common views about the text of the *Roland*.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	700,000	210,000	910,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
年度			
総計	2,200,000	660,000	2,860,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ文学

キーワード：『ロランの歌』、武勲詩、テキスト校訂、電子校訂

1. 研究開始当初の背景

オックスフォード本『ロランの歌』は、すでに多くの研究者がテキスト校訂を行っている。しかし、そのために、過去の膨大な研究成果を見渡すことが不可能になりつつある。過去の正当な指摘が無視されたり、誤解

されたり、といったことが、高名な学者の業績にさえも散見されるというのが現状なのである。

たとえば、比較的近年に出版されたオックスフォード本『ロランの歌』の刊行本としては、次のものがある。

1. Cesare Segrè, *Chanson de Roland*, introduction, texte critique, variantes de O, index des noms propres, traduite de l'italien par Madeleine Tyssens, Droz, coll. "TLF", Genève, 1989.

2. Ian Short, The Oxford version, in *The Song of Roland: French Corpus*, Joseph Duggan, Berpols, Amsterdam, 2005.

上記二点のいずれも、次のような問題点を持っている。すなわち、Segre は過去の校訂本で採用された修正や読みを脚注で示しているが、そこには、かなりの数の間違いがあり、Segre が自身の修正・読みとして提示しているものであっても、過去の校訂本ですでに提案されたものであることが多い。他方、Short は詳細な序文と注釈を自身の刊行本に付したが、そこには、過去の研究者の説を誤解した記述が散見される。実際、Segre は書評の中で、Short のこうした勘違いを痛烈に批判している。しかし、こうした問題は最近になって始まったものではなく、少なくとも、20 世紀後半には、顕在化していたのである。

以上のような事態を打開するには、過去の研究をデータベース化し、容易にアクセスできるようにすることが望ましい。しかし、著作権の観点から、過去の校訂本をそのまま電子化し、データベース化することはできない。そこで、まず、自前の校訂テキストを作成し、それと他の校訂本との異同を収録することで、著作権の問題をクリアしようというのが本研究テーマの勘所であった。

2. 研究の目的

オックスフォード本『ロランの歌』の校訂を通して、コンピュータを活用したテキスト校訂の方法、電子校訂法を確立すると同時に、その産物となる校訂テキストを基盤とした、『ロランの歌』データベースを作成する。

電子校訂法は、単に、写本のテキストを電子テキスト化する作業のことではなく、各種電子ツールを開発使用して、校訂作業そのものを効率化する手法のことである。

『ロランの歌』データベースとは、可能な限り広い範囲で収集した、過去の刊行本、論文、研究書でなされた提案を、行番号をキーにして、呼び出すことができるような仕組みのことである。これにより、過去の研究成果を見落とすことが防げるだけでなく、複数研究者の主張の比較検討が容易になる。そして、それを通じて、研究史の素早い把握が可能となり、文脈を踏まえない誤解を防ぐことができる

のである。

3. 研究の方法

唯一の電子テキストから、批評版とディプロマティック版を組み版するシステムを構築して、校訂テキストの信頼度を向上させるとともに、各種電子ツールを作成して、校訂やデータ作成における単純作業を軽減し、より充実したデータベースを実現する。

4. 研究成果

本研究テーマの最終目標ともいえるデータベースに関しては、610 頁におよぶ校訂本、Edition électronique du Roland d'Oxford (pdf 書籍)を公開した。

広い意味でテキスト校訂に関わる論文や電子校訂法に関わる論文を執筆・刊行したほか、同テーマの口頭発表もおこなった。

とりわけ、校訂法と深く関わる語彙論の問題点に関する論考、『Un supplément au glossaire de CourLouisLe』(雑誌論文 2)は、1877 年創刊の、きわめて権威あるロマンス語専門雑誌、Zeitschrift für romanische Philologie (『ロマンス語文献学誌』)に掲載され、古仏語研究において、日本人研究者の存在感をアピールできた。なお、「CourLouisLe の語彙集について」(雑誌論文 4)、『ルイの戴冠』におけるルイの人物像(学会発表 3)、『ルイの戴冠』におけるギョーム像(学会発表 4)も、多かれ少なかれ、当該語彙論研究と結びついている。

つぎに、『ロマンス語文献学誌』には、『De nouveau sur le texte du Roland d'Oxford: lecture』(雑誌論文 1)も掲載される(2014 年に刊行が決定している)が、これは、定説となっていた、オックスフォード本『ロランの歌』のいくつかの読みについて、異論を唱えるものである。現在までに、50 以上の刊行本が世に出ており、現在になって、新しい読みが「発見」される可能性はきわめて低いのだが、十分に説得性をもって論を展開できた(掲載決定はその証である)。したがって、本論が刊行されれば、大きな反響が得られるはずである。また、WEB 公開という過小評価されがちな方法で公開した Edition électronique du Roland d'Oxford の存在価値を高めることにも繋がるであろう。なお、「オックスフォード本『ロランの歌』のテキスト再考」(学会発表 4)は、当該論文の内容の一部を口頭で発表し、国際中世叙事詩学会の日本支部員の意見を問うものであったが、好評を得ることができた。

電子校訂法に関しては、「電子校訂法---古い文学とコンピュータ」(シンポジウム基調講演)では、電子校訂法の紹介を行った。とりわけ、開発途上の Oliphant (下記ソフトウェア 1) と Scriptorium (下記ソフトウェア 3) を使って、何ができるのかについて話した。また、コンピュータを用いた文学研究の一般的な手法についても紹介を行った。また、シンポジウムそのものは、私の WEB サイトの紹介を中心に、シンポジウム参加者が、各分野から意見を述べるという形で進められた。「Scriptorium による電子校訂」(雑誌論文 3) では、私が開発した Scriptorium の仕様を紹介し、その背景にある電子校訂の方法論を述べた。

さて、校訂作業の過程においては、各種電子ツールを作成した。

電子辞書としては、下記のものがある。

1. Hitoshi Ogurisu, LevPEdic: 原本: *Petit dictionnaire provençal-français* (Emil Levy, 4eme éd., Carl Winter-Universitätsverlag, Heidelberg, 1966)
2. Hitoshi Ogurisu, LexRomEdic: 原本: *Lexique Roman* (François J. M. Raynouard, *Lexique roman ou dictionnaire de la langue des troubadours comparée avec les autres langues de l'Europe latine*, Silvestre Librairie, 1844)
3. Hitoshi Ogurisu, LacEdic: 原本: *Dictionnaire historique de l'ancien langage françois ou Glossaire de la langue françoise*, J. B. de la Curne de Sainte-Palaye, Niort (Favre) - Paris (Champion) 1875-1882, 10 vol.
4. Hitoshi Ogurisu, BartschEdic: 原本: *Chrétomathie provençale (Xe-XVe siècle)* (Karl Bartsch, 6eme éd., entièrement refondue par Eduard Koschwitz, N. G. Elwert. Librarire-éditeur, Marburg, 1904).

電子データベースとしては、下記のものがある。

1. Machio Okada, Hitoshi Ogurisu, TCAF: *Tableaux de conjugaison de l'ancien français*. 古仏語動詞の変化表をデータベース化したもの。電子辞書版と pdf 版がある。全編フランス語。
2. Hitoshi Ogurisu, IndBedCom: Index des commentaires de Bédier sur la *Chanson de Roland*. Joseph Bédier の注釈のデータベース。

ソフトウェアとしては下記のものがある

1. Hitoshi Ogurisu, Oliphant: 写本の画像を電子テキストとリンクして操作することを可能とする、写本画像閲覧ソフト。フランス語版。
2. Hitoshi Ogurisu, Durendal: 電子辞書閲覧ソフト。フランス語版と日本語版。
3. 小栗栖等: Scriptorium: 電子校訂用組版準備ソフトであり、特定の仕様で作成された電子テキストを、ディプロマティック版とクリティック版に組版できるように加工する(組版そのものは LaTeX を使用)。日本語版。

これらの研究成果は、海外雑誌掲載論文を除き、すべて、WEB 上に無料公開しているが、国内外の研究者から利用しているとの報告を受けている。たとえば、フランス国立科学研究センター CNRS とロレーヌ大学の共同プロジェクト、ATILF (<http://atilf.atilf.fr>) の Dictionnaire du moyen français (DMF) では、私が作成した辞書データが使用されている。DMF は、存在する唯一の本格的な中フランス語辞書であり、世界中のフランス語研究者が参照している。その中で、私の作成したデータが利用されているのは大変名誉なことだと言えるだろう。

なお、上記以外に、種々の事情で公開していない成果もある。

まず、著作権の関係で公開していない電子辞書、主なものとしては、Oxford Latin Dictionary (P.G.W. Glave, Oxford at the Clarendon Press, 1982), Dictionnaire du Latin, nouvelle édition revue et augmentée (F. Gaffiot, Hachette-livre, 2000) などがあげられる(小型辞書等もあわせれば、十数点にもおよぶ)。

仕様が特殊かつ複雑なため、私以外の研究者には使用が不可能なソフトウェア(マニュアルを準備中のものも含む)。使用言語は基本的にフランス語である。

1. Escarboncle: 種々の刊行本の頁画像を行番号をキーにして、行き来するためのソフトウェア。実際にはソフトウェア群で、頁画像を操作するための種々の電子データを作成するための補助ソフトウェアと本体からなる。
2. Halteclere: 電子テキスト閲覧ソフト。電子語彙索引閲覧ソフト。行番号からテキストの該当箇所を表示するなどの機能もある。
3. Bibliotheca: 参考文献データベース
4. GrammIndex: 古仏語文法書の引用テキストデータベース

5. ImaginesX: 電子辞書作成用ソフト

以上のような未公開のソフトや電子辞書は、私個人しか使用できないが、通常の方法では不可能なほどのスピーディーに参照文献を渉猟できる。これらのツールの開発利用により、はじめて、公開された業績の作成が可能だったのである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

1, Hitoshi OGURISU, «De nouveau sur le texte du Roland d'Oxford: lecture», Zeitschrift für romanische Philologie, De Gruyter, 査読あり, 2014年発行予定, 第130号, 第1分冊, 掲載頁未定.

2, Hitoshi OGURISU, «Un supplément au glossaire de CourLouisLe», 査読あり, 2011年9月, Zeitschrift für romanische Philologie, De Gruyter, 第127号-第3分冊, pp. 411-421.

3, 小栗栖等, 「Scriptorium による電子校訂」, 査読なし, 2011年2月, 和歌山大学教育学部紀要-人文科学-, pp. 79-95.

4, 小栗栖等, 「CourLouisLe の語彙集について」, 査読あり, 2009年12月, LUTECE (大阪市立大学フランス文学会発行), pp. 17-36.

〔学会発表〕(計4件)

1, 小栗栖等, 「オックスフォード本『ロランの歌』のテキスト再考」, 2012年6月1日, 国際中世叙事詩学会日本支部研究報告会, 於成城大学.

2, 小栗栖等, 「電子校訂法---古い文学とコンピュータ」, 2011年度12月9日, 東北大学文学研究科主催シンポジウム「古い文学と私たち」, 於東北大学川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟.

参考: 小栗栖等, 黒岩卓, 岩下綾, 千川哲生, 「シンポジウム報告<古い文学と私たち>」, 東北大学フランス語フランス文学会, 『フランス文学研究』, 33号, 2013, pp. 54-62.

3, 「小栗栖等, 『ルイの戴冠』におけるルイの人物像」, 2011年度11月12日, 日本フランス語フランス文学会関西支部大会, 於大阪市立大学.

4, 小栗栖等, 「『ルイの戴冠』におけるギョーム像」, 2009年6月6日, リュテス研究発表会, 於大阪市立大学.

〔図書〕(計1件)

1, Hitoshi OGURISU, L'Édition électronique du Roland d'Oxford, <http://www.eonet.ne.jp/~ogurisu/Fr/ProjektRollant.html>, 2013, 610頁.

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.eonet.ne.jp/~ogurisu/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小栗栖 等 (OGURISU HITOSHI)

和歌山大学・教育学部・教授

研究者番号: 60283941

(2) 研究分担者

()

研究者番号:

(3) 連携研究者

()

研究者番号: